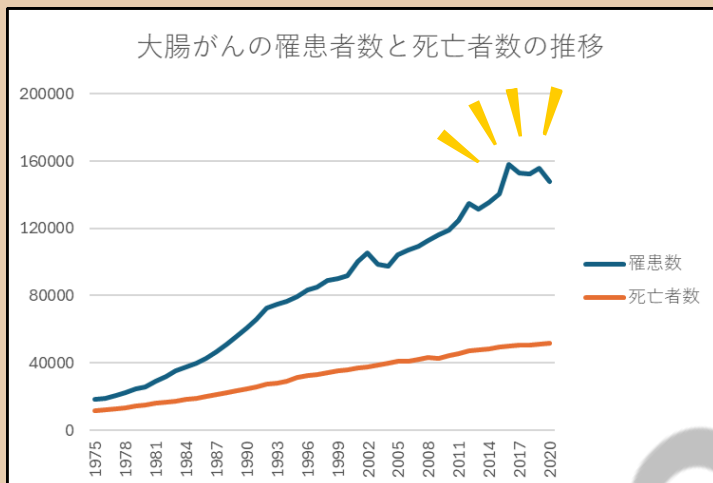


大腸がん検診 のすすめ



最近の大腸がんの傾向



大腸がんは近年増加傾向にあり、がんの中でも罹患者数は**第1位**、死亡者数は、**第2位**です。

早期に発見すればほぼ治癒可能ながんですが、死亡者数は年間5万人を超えています。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録（2016年～2020年））
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ）（1975年～2015年））
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）

検診で発見しやすいがんにもかかわらず死亡者数が多いのはなぜでしょうか？

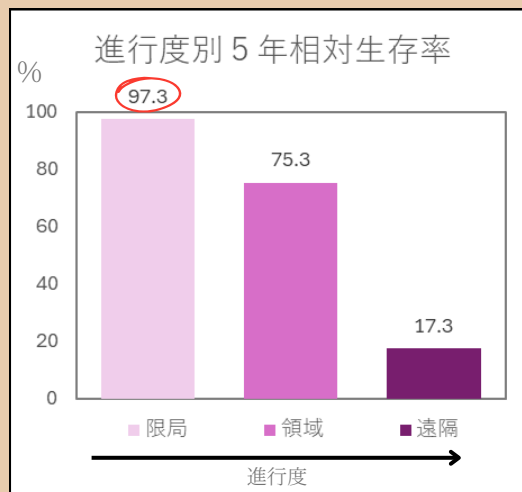
- 理由① **自覚症状**がほとんど**ない**ためです。
- 理由② 要精密検査と診断されても「痔だろう」と**精密検査をせずに放置**されてしまうためです。

「要精密検査」と診断されたら…

勇気を出して、**大腸内視鏡検査**を受けることが大切です。

不安な気持ちになってしまいますが、要精密検査と診断されてもがんでないことも多いです。また、内視鏡検査では、がんになる可能性のあるポリープで小さいものは、その場で治療できる場合もあります。

がんであったとしても**早期であれば90%以上治癒**します。放置することが最もリスクの高い行為です。

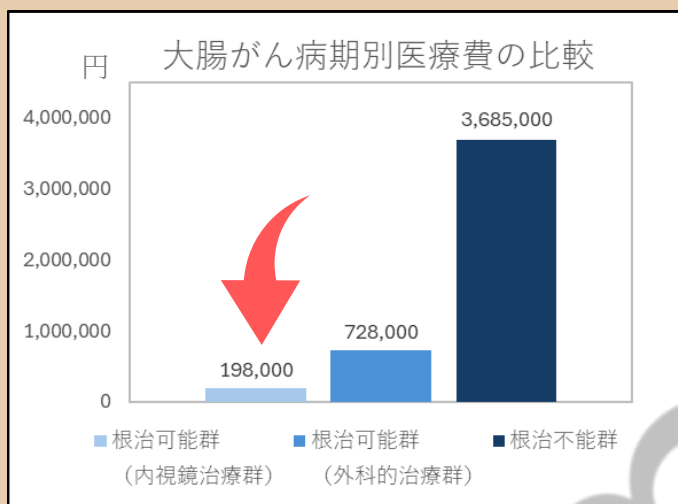


出典：全国がん罹患モニタリング集計 2009-2011年生存率報告（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター，2020）
独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成22年度報告書

続・大腸がん 検診のすすめ



早期発見であれば、金銭的にも負担は大幅に軽くなります。



左図は大腸がんの発見病期別に3年間の大腸がんの特異的な医療費を比較したものです。根治不能群に比べ根治可能群、特に内視鏡で治療できた場合は**医療費が18分の1**程度で済んでいることがわかります。早期発見・早期治療は金銭的な負担の軽減にも、つながります。

出典：八王子市「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)導入モデル事業
「大腸がんの進行度による総医療費の比較検討」京都大学大学院医学研究科



以下の項目に当てはまる場合、大腸がんのリスクが高いです。

- 喫煙する
- アルコールをよく飲む
- 肉を多く食べる
- 家族（親・兄弟）に既往歴がある
- 肥満（BMI30以上）である
- 運動不足
- 高身長である
- 最近便の状態が変わった



参照：がん情報サービス「科学的根拠に基づくがん予防」「大腸がん（結腸がん・直腸がん） 予防・検診」「大腸がん検診について」

40歳になったら年に1度、大腸がん検診を受けてください。
定期的に検診を受けることで大腸がんを早期発見・早期治療できる可能性が高まります。**早期発見**であれば身体的にも、金銭的にも**負担は少なく**済みます。

「あなたと家族のために、がん検診を。」

